
プロジェクト	収益認識
項目	第 443 回企業会計基準委員会及び第 109 回收益認識専門委員会で聞かれた意見

本資料の目的

1. 本資料では、第 443 回企業会計基準委員会（2020 年 10 月 8 日開催）及び第 109 回收益認識専門委員会（2020 年 10 月 16 日開催）の審議で聞かれた主な意見をまとめている。

検針日基準に関する議論の整理について

第 443 回企業会計基準委員会で聞かれた主な意見

（他の代替的な取扱いとの整合性に関する意見）

2. 確定値が把握できない状況において、検針日基準と見積値の差異に幅があることや、各社の試算結果にばらつきがあることをもって、それが合理的な見積りか否かを判断するのは難しいと感じている。

（追加で考えられる観点に関する意見）

3. 見積りに時間をかければより精緻となる可能性は高まるものの、決算スケジュールや監査スケジュールの観点からも、コスト・ベネフィットを考慮すべきと考える。

（代替的な取扱いを認めるか否かについての選択肢に関する意見）

4. 相当程度に精緻な見積りを行うことに、負担がかかる、あるいは、準備に時間を要するというのであれば、猶予期間を設けるということも一案ではないか。
5. 代替的な取扱いとして、特定の見積手法とするのではなく、各社で定めた見積手法について継続適用を前提に認めるという考え方もあるのではないか。
6. 最善の見積りを基本とする収益認識会計基準の考え方と相応の整合性が担保されること（見積りと検針日基準に重要な差異がないこと等）を条件として、例外として代替的な取扱い（検針日基準）を認めることも考えられるのではないか。

（代替的な取扱いを認める場合の対象企業に関する意見）

7. 電気事業連合会からの提起に関する説明資料は詳細に作成されており、他の業

種から同様の提起が多数行われるのではとの懸念については、慎重にとらえる必要はないと思われる。

(検討の枠組みに関する意見)

8. 会計基準内のみでの議論ではなく、ASBJ 外で業界内の基準で対応する等の議論が存在しても良いのではないかと考えられる。

第 109 回收益認識専門委員会で聞かれた主な意見

(他の代替的な取扱いとの整合性に関する意見)

9. 見積手法は合理的であるが、見積結果にばらつきがある、あるいは、見積りの影響に重要性があるという説明では、代替的取扱いの論拠とすることが難しい。
10. 電気事業連合会の説明では、見積りの幅に重要性があるとのことであったが、検針日基準との乖離率最大 0.66%は、見積りの精度としては高いと考えられるのではないか。

(財務諸表の適正表示に関する意見)

11. 収益と費用が期間対応していない点は、現行実務の課題と考えられる。

(見積りの考え方に関する意見)

12. 会計上の見積りが特別な検討を必要とするリスクに該当し得るという議論はどの企業も同じであり、これをもって監査が困難になり今回の試算を受け入れ可能としてよいかどうか懸念が生じるという監査人の意見には疑問を感じた。

(国際的な比較可能性に関する意見)

13. 代替的な取扱いが IFRS との重要な差になるかの判断が必要と考えられる。

(追加で考えられる観点に関する意見)

14. 決算及び監査スケジュールに関して負荷がかかることは、特別なことではなく代替的取扱いを認める論拠にならないと考える。
15. 東京証券取引所による決算発表の早期化の要請(翌月末開示)は、電力業界のみに対する要請ではなく、翌月末開示に限定しては議論が進まない。

(代替的な取扱いを認めるか否かについての選択肢に関する意見)

16. 不確実性が高い事象でも最善の見積りを行うことは監査人から要請されており、合理的な方法での見積りが必要と考える。この考え方を覆す論点は見当たらない。

かった。

17. 確定値がない場合でも、財務会計上は見積り可能と考える。バックテストの可否については、監査の問題であると考えられる。
18. 代替的取扱いを認める場合には、論拠を明確化し、また適用対象を公平にする必要がある。

(代替的な取扱いを認める場合の対象企業に関する意見)

19. 確定値がない場合に代替的取扱いを定めるのであれば、「確定値がない」を定義しないと濫用のリスクが生じ得ると考えられる。
20. 財務諸表間の比較可能性を損なう場合に代替的取扱いを認めるのであれば、業界を限定する必要があると思われる。
21. 仮に代替的な取扱いを認めるのであれば、電力業のビジネスの特性に基づいて検討を行うべきと考える。

(検討の枠組みに関する意見)

22. 会計基準の見直しでの対応には賛成しない。監査上の取扱いの範囲で対応できるのであれば、会計基準において代替的取扱いとして扱うことではないのではないか。

以 上